

大久保病院だより

No.
37
令和2年
6月1日

編集・発行 | 特定医療法人誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078(935)2680 FAX078(935)2684

利用しやすい病院に 患者 サポート活動

お弁当・パン・菓子類・雑誌類と共に入院に必要な日用品を置いて患者様にご利用いただいている、当院の売店「やまぎきショップ」です。お弁当などは職員も便利にご利用しております。



自動車移動販売の「まほろばのパン」。
毎週月曜日の昼時11:30~13:00まで正面玄関脇に開店します。数年前より来ていただいています。やはり一番人気はクリームパンです。



水曜日には「さわことり」の手作りパン屋さんが開店します。
販売に来られるお姉さんの手作りで、米粉を使ったパンを中心に菓子パン・サンドイッチ・クッキーがワゴンに並びます。白パンの玉子サンドもお勧めです。時にはお手製のジャムがあったりして楽しみです。



「備えよ常に」

2019年度 第2回 医療安全研修会開催報告

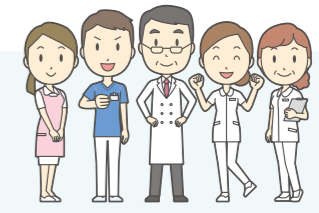
医療安全管理者 木本 眞理



2月15日(土)、東京都立広尾病院減災対策支援室副室長の中島康先生を講師にお招きし、「病院の災害対応」をテーマに、明石の子午線ホールで医療安全研修会を開催しました。

中島先生は、DMATや国際緊急援助隊等で多くの海外災害派遣を経験された後、現在は災害拠点病院の防災・減災対策の支援活動をされており、当日は病院の減災対策の実際について講演していただきました。

「備えよ常に」の教養は印象深く、病院の災害対応の心構えを得ることが出来ました。



講演の概要

災害対応の3つの心得

- ①安全第一：自分の身を守れなければ、人は助けられない。
 - ②情報共有：自分から発信しなければ、人からは得られない。
 - ③交代勤務：働く時間と同じだけ休まねば、行動は続かない。
- これらは現場の災害対応として最低限必要なことで、これだけで十分ではない。

病院の災害対応とは

- ・病院の災害対応の目的は、災害で生じる困難の下で命を守ること。
- ・災害時には、①人手の不足、②設備・物資の不足、③情報の不足という3つの困難が生じるが、これら3つの不足にどう対処するかについて、普段からの準備と訓練が必要。
- ・災害時には業務整理で生命維持に必要な業務に絞り込み、人手を確保すること。
- ・資源確保には、電源確保の優先順位が重要。生命維持が優先され、基本は節電を徹底する。
- ・情報管理は、緊急性と重要度で情報のトリアージが重要。報告が無い事が最も深刻な事態の可能性もあることを忘れずに。
- ・災害時に必要な行動をアクションカードに書き出し、訓練と準備を日常化させることが重要。

特定医療法人 誠仁会 大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1
tel. (078) 935-2563
<http://www.seiinkai.or.jp/okubo/index.html>



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス
②のりば 19「山手台」行き
③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

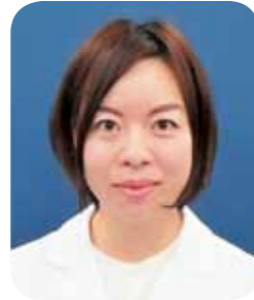
車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分



新任医師紹介

麻酔科 金子 宏美



麻酔科の金子宏美です。

この度ご縁があり、2020年4月から大久保病院にて働かせていただくこととなりました。こちらに赴任するまでは近畿中央病院にて研修後、兵庫医科大学病院にて勤務してまいりました。

麻酔科の研修をしている時に、さまざまな知識や技術を教えていただき麻酔の奥深さを知りました。そして、麻酔科医としての道を歩みました。

今まで学んできた各分野の知識を生か

して、患者様が少しでも安心・快適な麻酔を送れるよう、自分や家族がしてもらいたい麻酔をすることを心がけ、患者様に寄り添う麻酔をしていきたいと思えます。

そして地域の皆様の健康に末永く貢献できるような病院の一員になれればと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。



新入職者紹介

今年の幕開けは、COVID-19からでした。日に日に増える感染者に医療従事者としてはどのように立ち向かえばよいのか頭を悩ます状況です。私たちは、このウイルスにより変化する社会状況に対し組織一丸となり向かっていくための組織力を試されているように思います。そのような日々変化する医療現場に19名の新入職の方が来られました。新人もいます、経験を積み自分のスキルや知恵をこの病院で活かしたいと思われ入職した職員もいます。



例年は桜がちらほら咲き始め、これから春に向かっていく季節とともに自分自身の気持ちも春の芽吹きのように大きく膨らまし、この春にしか味わえない何とも言えない気持ちで迎えているのが4月1日です。

しかし、今年はCOVID-19で病院中がコントロールを強いられ、不安もさることながら新たな目標に向けて調整もできない状況の中での入職となりました。しかし私たちはこの新たな力でこの状況を一緒に乗り越えていけることを願っています。

Post introduction

部署紹介

薬局



大久保病院薬局は誠仁会薬剤部長、常勤薬剤師5名、パート薬剤師3名、事務2名で業務を行なっています。

服薬指導、病棟薬剤業務など、主に入院中の薬について、安全・適切に薬が使用され、患者様が入院中に安心して過ごせるよう努めています。院内の調剤はほぼシステム化されており、医師が電子カルテに入力した処方オーダーにより、連携したシステムを介して調剤します。用法用量や薬の飲み合わせ適合、重複投与などもシステムでチェックし、調剤時の人為的ミスを



最小限にする工夫をしています。注射薬についても用法用量、配合変化や飲み薬との相互作用などをチェックします。また、感染リスクを減らすため、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製を行なっています。

そのほかにも、感染対策委員会、抗菌薬カンファレンス、糖尿病カンファレンスや緩和ケア病棟カンファレンスなどに参加して各種委員会やチーム医療の一員として、貢献できるよう日々努めています。

感染管理委員会より

外来トリアージ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、3月25日より正面玄関にて検温と問診を実施しております。

ご来院の際にはお手数をお掛けしておりますが、皆様のご協力をいただきまして、大変スムーズに進めることができております。

また、皆様からのご協力や温かいお言葉が職員への励ましとなっておりますこと、お礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の終息にはまだ時間がかかり

そうですが、ご来院の皆様と職員を守るため、今しばらくはトリアージを継続して参ります。

引き続きのご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

